

1 結果

AWF, IPF の 2 配列とも沈殿を得ることができなかった。

2 考察

今回の実験では、石井さんと共同で行い、石井さんの 6 残基程度のペプチドについては沈殿を得ることができた。このことから、ペプチド合成までの操作に問題はないと考えられる。問題があるとすれば、ペプチドの脱保護や沈殿操作の段階である可能性が示唆された。

横野さんに問い合わせた結果、15% ヘプタン-TBME を加えた後に、十分に攪拌が行われているかが重要であり、ボルテックスや上下反転での攪拌が必要とのアドバイスをいただいた。また、2mL の水を加える際にも同様に十分な攪拌が必要であるとのことだったが、今回の実験では、攪拌が実際には十分に行われていなかった。また、水の量が多すぎた可能性や、使用したペプチドが沈殿しにくい性質を持っていた可能性も考えられる。

これらの要因を踏まえ、次回の実験ではペプチドを変更すること、攪拌を十分に行うこと、水の量を適切に調整することを検討する。